

夏、大きな体験!



特集

# 子どもたちの夏休み研修

村では、未来を担う子どもたちを国内外へ派遣し、地理的環境や歴史の異なる地域で、さまざまな体験を通して子どもたちの気付きを増やし、人づくりを行う研修事業を実施しています。今年度は、中学生対象の再生可能エネルギーや環境と共生した持続可能な社会を学ぶ「未来への翼」ドイツ研修と、小学6年生対象の平和と自然の大切さを学ぶ沖縄研修を行いました。

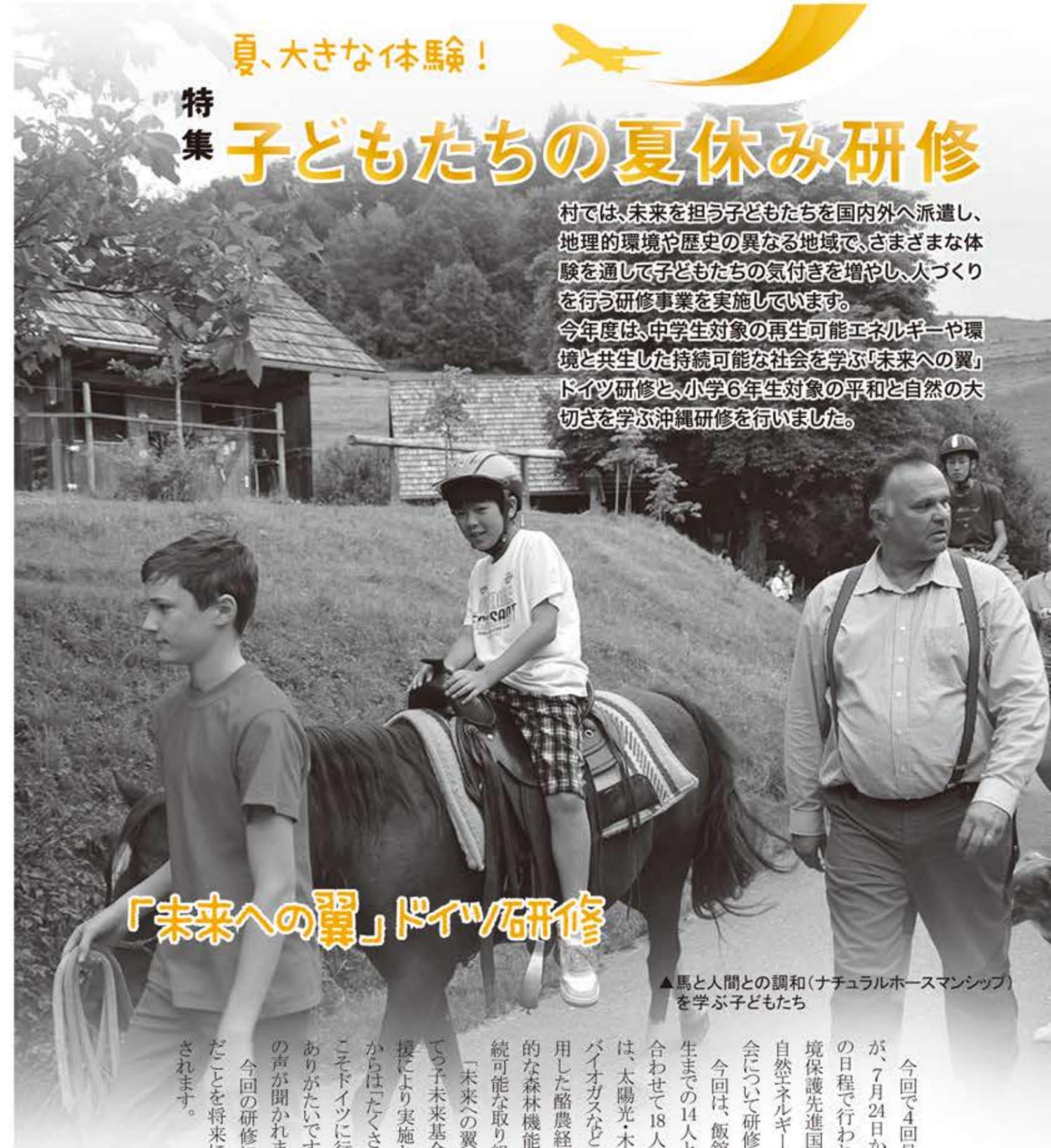


- ① 市民が出資した風力発電の巨大な風車の前で高さが138mの支柱はこんなにも太い!
- ② エコ住宅地であるポーバン地区で、熱と電力を無駄なく活用する家庭用システムを見学
- ③ ドイツの「環境首都」フライブルグは緑があふれる、環境と共生する街づくり
- ④ 黒い森の中で、持続可能な森林機能の説明を受ける子どもたち
- ⑤ ハーブ園では、ハーブに触れて効果を実感
- ⑥ シモンズバルト村では、現地の子どもたちと交流



## 「未来への翼」ドイツ研修

▲馬と人間との調和(ナチュラルホースマンシップ)を学ぶ子どもたち



飯館中1年  
菅野 茜さん

### ドイツ研修から ～参加者の感想～

ドイツのエコ住宅では、高い性能の熱交換器による空調設備がある「パッシブハウス」という、分厚い断熱材を利用した家があり、夏涼しく、冬は暖かく快適に過ごしていました。また、ソーラーパネルの熱を使いお湯を作るなど、お金をかけずに工夫していることがすごいなと思いました。

他にも太陽光・風力・バイオマスによる発電など、再生可能エネルギーの利用を続けて、原子力に頼らない、自然を有効に使った生活をしていることが分かりました。



飯館中1年  
大島 一樹さん

今回の研修の中で見学した風力発電は、高さが138メートルもある大型で、6,000人分の電気を賄うことができるということに驚きました。しかも、その風車の建設費用は、全額市民が出し合ったということも驚きでした。

今回、今までにしたことのない体験を通じ、ドイツの再生可能エネルギーは、日本が見習うべき点があると思いました。

「未来への翼」研修は、全国からいたって子未来基金に寄せられた、温かい支援により実施されています。今回の参加者からは「たくさんの人の支援があったからこそドイツに行くことができて、本当にありがたいです」と、支援に対する感謝の声が聞かれました。

今回の4回目となる「未来への翼」研修が、7月24日から8月4日までの12日間の日程で行われました。今年の夏は、環境保護先進国のドイツで、3回目となる自然エネルギーを利用した持続可能な社会について研修しました。

今回は、飯館中学校の1年生から3年生までの14人と震災後に転校した4人、合わせて18人が参加しました。研修では、太陽光・木質バイオマスによる売電やバイオガスなどの再生可能エネルギーを利用した酪農経営、自然と調和した多面的な森林機能など、環境と共生する持続可能な取り組みについて学びました。

今回の研修により、子どもたちが学んだことを将来に活かしていくことが期待されます。